

ワイコム通信 Vol.7

今回のVol.7ではリサイクルパレットについて取り上げさせていただきます。

パレットは業種を問わず、物流資材や倉庫保管時に必ずと言ってもよいほど活用されています。積載する物は非常に多種多様であり、パレットの種類も同様に幅広く存在します。サイズは様々、材質も木・プラスチックが一般的ですが、金属や紙製などもあります。

その中でも今回はプラスチックの「**容器包装リサイクル**」品に着目していきたいと思います。



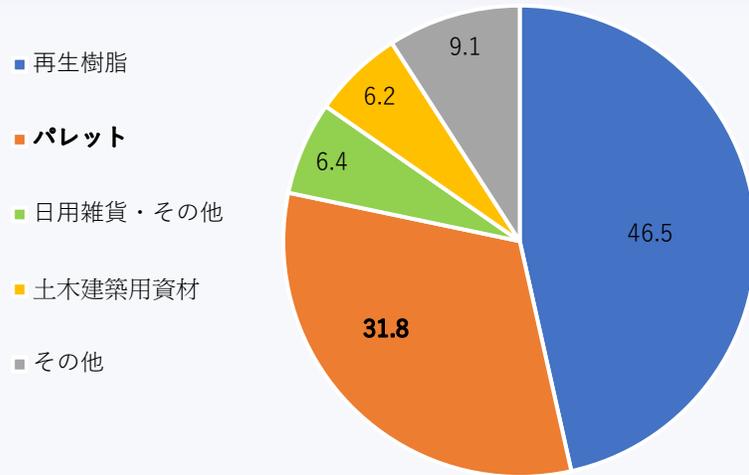
○そもそも〈容器包装〉とは何か？

→定義としては商品を入れる物(容器)、包む物(包装)となっています。

食品を包むフィルム、卵パック、飲料が入っているボトル、レジ袋、etc・・・

これらの〈容器包装〉が普段の生活から出る家庭ごみの内、約6割(容積比)を占めています。
この6割を少しでも減らすことができないか、さらに資源として有効活用することはできないか？
として制定されたのが「**容器包装リサイクル(以下、容リ)**」法です。

容リ製品 内訳(令和4年度)



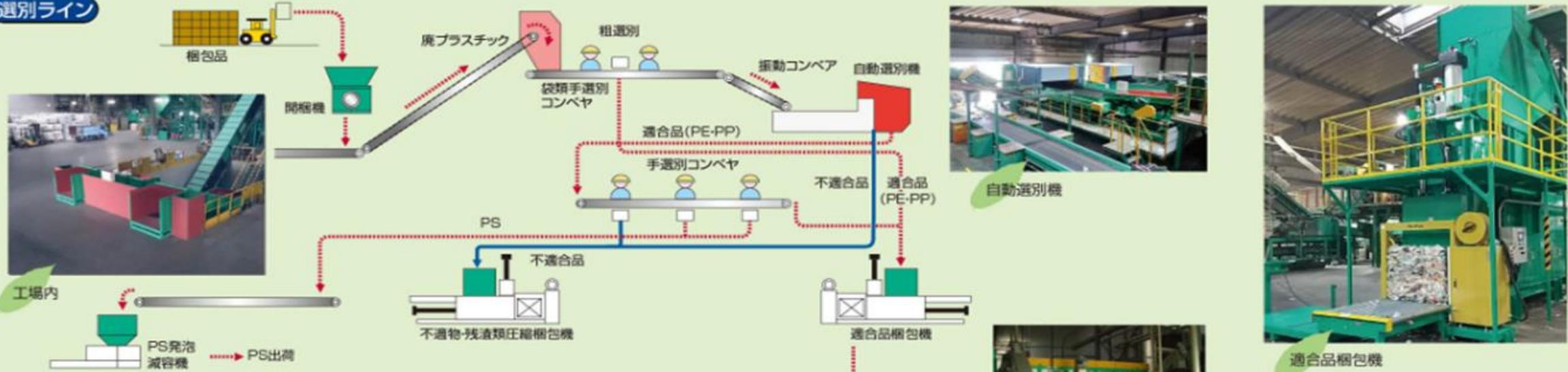
左のグラフは容リからマテリアルリサイクルされた製品の内訳です。再生樹脂が最も多い46.5%ですが、これは容リ品以外に無機物などを混ぜ込み強度や剛性を調整した後に別の製品に生まれ変わっており、製品単体で見たときにパレットの31.8%という数字が飛びぬけていることがわかります。

パレットの場合は、一般的なPP・PEの強度があれば十分に役目を果たせる用途が多いこともあり、しっかり選別・洗浄された容リ品であればそのまま成形して使用してもしっかりと物が出来上がるので、容リの用途として向いていると言えるでしょう。

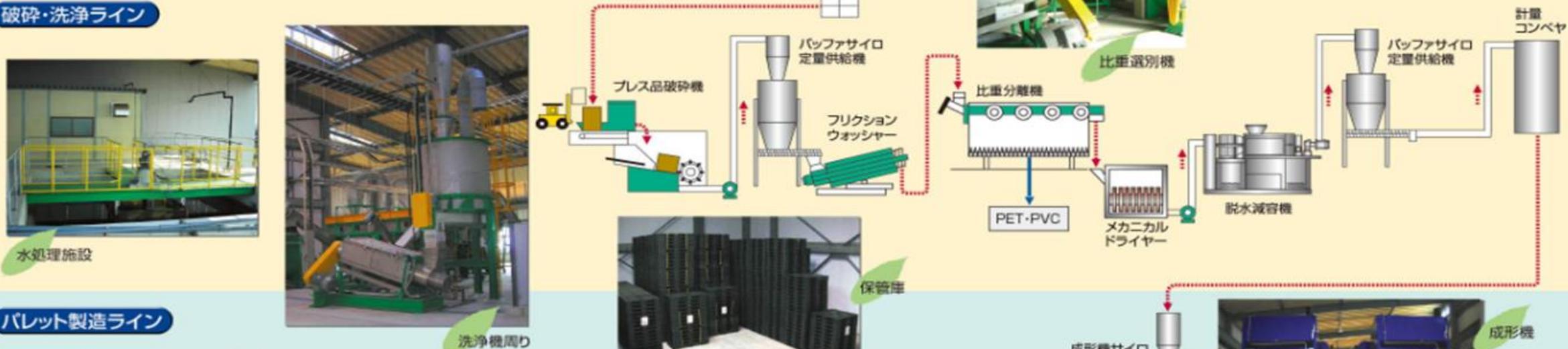
出典元：<https://www.jcpra.or.jp/recycle/recycling/tabid/432/index.php>

↓実際に容リからパレットを製造している企業様の工場内フロー図が次になります↓

選別ライン



破碎・洗浄ライン



パレット製造ライン



前提として一度使用された〈容器包装〉ですので、非容リ製品と比較すると少し外観や物性的に劣る部分もあるかもしれません。

ただ、ワンウェイパレットという用途に限れば、強度的にJIS規格をクリアしていれば実用上問題は無いのではないのでしょうか。

用途からして過剰品質の傾向があるかもしれません。

「容リ品だから脆い」と決めつけるのではなく、積極的にSDGsに貢献する手段として頭を切り換える時期に来ているかと思います。

※下記表は一例です。

項目		リサイクルパレット (実力値)	JIS規格B種
圧縮強度	ひずみ量 mm	1.0mm	4mm以下
曲げ強度	たわみ率 %	1.9%	5%以下
下面デッキボード強度	たわみ率 %	3.7%	8%以下
落下強度	対角線長さの変化率%	0%	1%以下



最後に

一般廃棄されているプラスチックごみを原料としているため、比較的成本を低く抑えられることも容リパレットのメリットと言えるでしょう。

ただ、最大のメリットは「環境への配慮」ではないかと思います。「ごみ」を「ごみ」として処理するのではなく、違う形で再利用できる物を採用していけば少しずつでも環境保全に貢献できます。その活動を多くの事業者様で取り組むことができれば、大きな効果を得られるのではないのでしょうか。

まさに「**塵も積もれば山となる**」です。

サステナブルな社会を実現するための方法としてぜひ検討してみてはいかがでしょうか。

